

ブロッコリー\*1 (野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	使用条件	根こぶ病	べと病	菌核病	苗木枯病	黒すす病	根朽病	黒腐病	黒斑細菌病	花蕾腐敗病	軟腐病
Zボルドー水	M1		-	-								◎		◎	
クプロシールドFL*2	M1		*h	-									◎	◎	
コサイド3000DF	M1		-	-										◎	
マスタピース水	NC		1	-									◎	◎	◎
スターナ水	31		14	2									◎	◎	◎
トップジンM水㊟	1		14	2				◎			◎				
ベンレート水㊿	1		7	3				◎			◎				
エトフィンFL	22		1	3			◎								
アフエットFL*2	7		1	3				◎		◎	◎				
カンタスDF	7		7	2				◎							
カナメFL	7	劇	1	3				◎		◎					
ケンジャFL*2	7		1	3				◎		◎					
パレード20FL*2	7		1	3				◎		◎					
		*i	1	☆				◎		◎					
アミスター20FL	11		1	3			◎	◎		◎					
スクレアFL	11		1	3				◎		◎					
ファンタジスタ顆水*2	11		3	3				◎		◎					
メジャーFL	11		1	3				◎	◎	◎					
オラクル顆水	21			2			◎								
		*g	1	☆			◎								
オラクル粉	21		*g	2			◎								
ライメイFL	21		7	4			◎								

ブ  
ロ  
ッ  
コ  
リ  
ー

ブロッコリー\*1 (野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	使用条件	根こぶ病	べと病	菌核病	苗木立枯病	黒すす病	根朽病	黒腐病	黒斑細菌病	花蕾腐敗病	軟腐病
ランマンFL	21		3	3			◎								
			14	1		◎									
			*f	1	☆	◎									
フロンサイドSC	29		*g	1		◎									
フロンサイド粉	29		*b	1		◎									
セイビア-FL20	12		3	3			◎								
レーバスFL	40		7	2		◎									
オリゼメート顆水	P2		*a	1	☆						◎	◎			
リゾレックス水	14		*e	2				®							
			21	1			®								
オリゼメート粒	P2		*a	1							◎				
ネビジン粉	36		*b	1		◎									
ネビリュウ粉粒	36		*b	1		◎									
ピシロックFL*2	U17		1	2			◎								
バリダシン液5	U18		1	3								◎		◎	
キノンドー水40	M1		14	3								◎	◎		
ヨネボン水	M1		1	4			◎					◎			
ダコニール1000FL	M5		*d	2			◎								
			*a	1		◎									
フォリオゴールドFL	4・M5		*d	2			◎								
カセット水	31・24		14	2								◎			
ナレート水	31・M1		14	2										◎	
ダコレート水◎	1・M5		*d	2			◎	◎							

ブロッコリー

## ブロッコリー\*1 (野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	使用条件	根こぶ病	べと病	菌核病	苗木立枯病	黒すす病	根朽病	黒腐病	黒斑細菌病	花蕾腐敗病	軟腐病
シグナムWDG*2	7・11		7	2			⊙	⊙		⊙					
ベジセイバーFL	7・M5		*d	2			⊙	⊙		⊙					
ユニフォーム粒	11・4		*g	1			⊙								
ホライズンDF	11・27		1	3			⊙			⊙					
カスミンボルドー水	24・M1		7	4								⊙			
プロボーズ顆水	40・M5		*d	2			⊙								

\*1: 茎ブロッコリー(スティックセニョール等)には、ブロッコリーの登録農薬は使用できない。野菜類、あぶらな科野菜(花蕾及び茎)、はなやさい類及び茎ブロッコリーで登録のある農薬のみ使用できる。

\*2: 「はなやさい類」での登録

⊕: チオファネートメチル含有剤 ⊖: ベノミル含有剤 ⊕を使用した場合には同じ作での⊖は使用しないこと。その逆も同様(種子への処理および塗布処理を除く、詳細はP. 856参照)。

\*a: 定植時 \*b: 播種又は定植前 \*d: 出蕾前(但し収穫21日前まで) \*e: 育苗期

\*f: 定植前日～当日 \*g: 定植前 \*h: 発病前～発病初期 i: 育苗期後半～定植当日

Ⓜ: リゾクトニア菌による病害

☆: セル成型育苗トレイまたはペーパーポットで育苗している苗に灌注処理する。

ブロッコリー\*1 (野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用 機 構 分 類 コ ー ド	人 畜 毒 性	使 用 時 期 ( 日 数 )	使 用 回 数	使 用 条 件	ア ブ ラ ミ ウ シ 類	ア ザ ミ ウ シ 類	ヒ メ ダ イ コ ン バ エ	カ ブ ラ ハ バ チ	ア オ ハ ム シ	コ ナ ガ	ハ イ マ ダ ラ ノ メ イ ガ	ヨ ト ウ ム シ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	シ ロ イ チ モ ジ ヨ ト ウ	オ オ タ バ コ ガ	ウ ワ バ バ	ネ キ リ ム シ 類	キ ス ジ ノ ミ ハ ム シ	コ ガ ネ ム シ 類 幼 虫	コ オ ロ ギ 類	ケ ラ	キ ボ シ マ ル ト ビ ム シ		
スピノエース顆水	5		3	3						◎	◎														
オルトラン粒	1B		*d	1		◎				◎			◎					◎							
ジェイエース粒	1B		*d	1									◎												
ダイアジノン乳40	1B		30	2		◎				◎	◎								◎				◎		
ダイアジノン粒5	1B		*f	2														◎					◎		
			*d	1															◎					◎	
ダイアジノン粒10	1B	劇	30	2														◎							
マラソン乳	1B		3	5		◎	◎		◎	◎															
プリンス粒	2B		*h	1	◆								◎												
			*m	1	▲								◎												
			*n	1	△								◎												
アディオソ乳	3A		3	5		◎					◎								◎						
			7	5	株															◎					
ガードバイトA粒	3A		*L	5															◎						
トレボソ乳	3A		1	3						◎															
フォース粒	3A	劇	*d	1															◎						
アクタラ粒5	4A		*a	1						◎	◎	◎													
			*h	1								◎													
アクタラ顆溶	4A		1	3		◎																			
アドマイヤーFL	4A	劇	3	2		◎																			
アドマイヤー1粒	4A		*d	1		◎																			
アルバリン顆溶	4A		3	2		◎																			
スタークル顆溶			*d	1	☆							◎													
ダントツ溶	4A		3	3		◎				◎	◎														
ダントツ粒	4A		*a			◎				◎	◎	◎													
			*a	1	▲	◎	ギ				◎	◎	◎												
			*d	1	◎						◎	◎	◎												
			*h	1	◇	◎							◎												
			*h	1	◆	◎							◎												
ベストガード溶	4A		1	3		◎	◎																		
ベストガード粒	4A		*d	1		◎	◎																		
			*a	1		◎	◎																		
モスピラン顆溶	4A	劇	14	3		◎	◎			◎	◎														
モスピラン粒	4A		*e	1		◎				◎	◎	◎													
			*d	1		◎					◎	◎													
トランスフォームFL	4C		1	3		◎																			

ブ  
ロ  
ッ  
コ  
リ  
ー

ブロッコリー<sup>\*1</sup> (野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用 機構 分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	使 用 条 件	ア ブ ラ ミ ウ シ 類	ア ザ ミ ウ シ 類	ア メ ダ イ コ ン パ エ	カ ブ ラ ハ バ チ	ア オ シ	コ ナ ガ	ハ イ マ ダ ラ ノ メ イ ガ	ヨ ト ウ ム シ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	シ ロ イ チ モ ジ ヨ ト ウ	オ オ タ バ コ ガ	ウ ワ バ バ	ネ キ リ ム シ 類	キ ス ジ ノ ミ ハ ム シ	コ ガ ネ ム シ 類 幼 虫	コ オ ロ ギ 類	ケ ラ	キ ボ シ マ ル ト ビ ム シ
フィールドマストFL <sup>*2</sup>	4E		3	2						◎	◎	◎	◎	◎	◎								
ディアナSC	5		1	2		◎				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
ラディアントSC	5		1	2		◎				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
アニキ乳	6		3	3						◎	◎			◎	◎								
アフーム乳	6		3	3						◎	◎		◎	◎		◎							
コルト顆水	9B		1	3	◎																		
コテツFL	13	劇	3	2						◎	◎		◎	◎	◎								
バダンスG溶	14	劇	7	4							◎												
リーフガード顆水	14	劇	7	3	◎						◎												
アタブロン乳	15		21	2						◎	◎						タ						
カウンター乳	15		7	2								◎											
カスケード乳	15		7	2		◎				◎	◎		◎	◎									
マッチ乳	15		7	3										◎									
ファルコンFL	18		3	2									◎	◎									
マトリックFL	18		1	3									◎										
ハチハチ乳	21A	劇	7	2	◎					◎	◎												
トルネードエースDF	22A		14	2						◎	◎			◎	◎		◎						
ファイントリムDF	22A		14	2						◎	◎			◎	◎								
アクセルFL	22B		1	2							◎		◎	◎									
アクセルバイト粒	22B		1	2														◎			◎		
モベントFL	23		7	3	◎	◎				◎	◎												
フェニックス顆水	28		1	2							◎	◎	◎	◎									
ブリロッソ粒オメガ	28		*i *j	1	▲	◎	◎			◎	◎												
ブレバソンFL 5	28		*i 1	1 3	☆					◎	◎		◎			◎							
ブレバソン粒	28		*i *j	1	▲					◎	◎	◎											
ベネビアOD	28		1	3		◎	◎			◎	◎			◎	◎								
バリマークSC	28		*i	1	☆	◎	◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎								
ヨーバルFL	28		1 *i	3 1	◎ ☆	◎	◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎			◎			
ウララDF	29		1	2	◎																		
グレーシア乳 <sup>*2</sup>	30		7	2		◎				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
プロフレアSC <sup>*2</sup>	30		1	3						◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						

ブ  
ロ  
ッ  
コ  
リ  
ー

ブロッコリー\*1(野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分 類 コ ド	人 畜 毒 性	使 用 時 期 ( 日 数 )	使 用 回 数	使 用 条 件	ア ブ ラ ミ ウ マ シ 類	ア ザ ミ ウ マ シ 類	ヒ メ ダ イ コ ン パ エ 類	カ ブ ラ ハ ム チ 類	ア オ シ 類	コ ナ ガ シ 類	ハ イ マ ダ ラ ノ メ イ ガ シ 類	ヨ ト ム ト シ 類	ハ ス モ ン ヨ ト ウ シ 類	シ ロ イ チ モ ジ ヨ ト ウ シ 類	オ オ タ バ コ ガ シ 類	ウ ワ バ シ 類	ネ キ リ ム シ 類	キ ス ジ ノ ミ ハ ム シ 類	コ ガ ネ ム シ 類 幼 虫	コ オ ロ ギ 類	ケ ラ シ 類	キ ボ シ マ ル ト ビ ム シ 類					
ファインセーブFL	34	劇	3	2			◎			◎	◎																	
ブレオFL	UN		7	2							◎			◎	◎													
キックオフ顆水	4A・ 28	*k	1	☆	◎	◎			◎	◎			◎															
ジュリポFL	4A・ 28	*i	1	☆	◎	ギ			◎	◎	◎		◎															
ミネクトデュオ粒	4A・ 28	*c	1		◎	◎			◎	◎	◎		◎															
		*d			◎	◎			◎	◎	◎																	
		*h										◎																
		*n											◎															
アフームエクセラ顆水	6・ 15		7	3						◎	◎	◎		◎	◎													

\*1:茎ブロッコリー(スティックセニョール等)には、ブロッコリーの登録農薬は使用できない。野菜類及び茎ブロッコリーで登録のある農薬のみ使用できる。

\*2:「はなやさい類」での登録

☆:セル成型育苗トレイ又はペーパーポットで育苗している苗に灌注処理する。

◇:覆土後セル成型育苗トレイ又はペーパーポットの上から散布する。

◆:セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの覆土に均一に混和する。

△:セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの床土に均一に混和する。

▲:セル成型育苗トレイ又はペーパーポットの上から均一に散布する。

株:株元灌注

\*a:育苗期後半 \*b:定植前まで \*c:播種覆土後～育苗期後半 \*d:定植時

\*e:定植前日～定植当日 \*f:播種時又は定植時 \*h:播種時

\*i:育苗期後半～定植当日 \*j:育苗期後半～定植時 \*k:定植前日～定植時

\*l:生育初期 \*m:播種時～定植前 \*n:播種前

ギ:ネギアザミウマ タ:タマナギンウワバ

ブ  
ロ  
ッ  
コ  
リ  
ー

## ブロッコリー(野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる)

主要病害虫発消長		1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
病 害	春まき			—		—							
	黒腐病			—		—							
	夏まき (秋どり)							—		—	—		
	黒腐病								—	—	—	—	
虫 害	コナガ						—						
	アオムシ (モンシロチョウ)				—	—	—	—					
	ヨトウムシ									—	—		
	アブラムシ類											—	—

作 型 — ; 栽培期 — ; 収穫期  
 病害虫発消長 — ; 発生期 — ; 発生盛期

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
根こぶ病	播種前または定植前	<ol style="list-style-type: none"> <li>常発生地ではアブラナ科以外の作物との輪作を心がける。</li> <li>高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。</li> <li>石灰施用により土壌酸度を矯正する。</li> <li>定植直前に次の薬剤のいずれかを土壌混和する。                      オラクル粉剤                          全面処理           30kg/10 a                          作条処理           20kg/10 a                      ネビジン粉剤                          全面処理           20~30kg/10 a                          作条処理           20kg/10 a                      フロンサイド粉剤                          全面処理           30~40kg/10 a                          作条処理           15~20kg/10 a                 </li> <li>定植前日~当日に次の薬剤をセル苗に灌注する。                      ランマンフロアブル△   500倍                 </li> </ol>	各種アブラナ科作物に発生し、土壌伝染する。ダイコンでは被害はほとんど見ない。 夏から秋にかけて、高温多湿の年は、夏まきに多発する。 春先にアブラナ科作物を栽培し、秋も連作すると多発しやすい。 トウモロコシやジャガイモの後作では被害が軽い傾向がある。 薬剤は地層10~15cmの土壌と十分に混合する。
	生育期および収穫後	・発病株は根、特にこぶを残さないように早めに処分する。また収穫後、残渣を丁寧に処分し畑にすきこまないようにする。	△ 2 L/セル成型育苗トレイ (30×60cm、土壌量約2.5~7 L)

**ブロッコリー**(野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
苗立枯病	播種前	1. 過密な播種をさけ、苗床の過湿に注意する。 2. 高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。	病原菌はリゾクトニア菌の場合が多いが、育苗中に雨が多い年にはピシウム菌によることもある。 #リゾクトニア菌にのみ有効。
	育苗期	・次の薬剤を3 L/m <sup>2</sup> 灌注する。 リゾレックス水和剤# 500倍	
黒腐病	播種前	・高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。	各種アブラナ科植物に発生し、土壤伝染する。 病原細菌は葉緑の水孔および葉や茎に生じた傷口から侵入する。ブロッコリーは本病に感受性が高い。 5月および9～10月頃、比較的気温が低く雨の多い年に発生しやすい。特に台風後に多発し、害虫などによる食害は発生を助長する。 *野菜類での登録
	生育期	1. 害虫の防除を行う(害虫の項参照)。 2. 発生が認められたら初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 カスミンボルドー(水) 1000倍 キノンドー水和剤40 800倍 乙ボルドー(水)* 500倍 3. 台風などで茎葉が傷ついたときはただちに上記薬剤を散布する。	
根朽病	播種前	・高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。	キャベツ、カリフラワーなどに被害が多く、土壤伝染する。 秋どりの幼苗期～生育中期にかけて発生が多く、強風は本病の発生を助長する。
	育苗期～生育期	1. 植え傷み、特に地際部の傷に注意する。 2. 発病株は早めに処分する。 3. 発生が認められたら初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 ベンレート水和剤 2000倍 アフエットフロアブル 2000倍	
アブラムシ類	生育期	1. 寒冷紗などによる被覆栽培や光反射マルチシート等での有翅虫の着生を防止する。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アクタラ顆粒水溶剤 3000倍 ウララDF 2000～3000倍 ダイアジノン乳剤40 1000倍 ハチハチ乳剤 1000～2000倍	

## ブロッコリー(野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
アオムシ	生育期	<p>・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>エスマルクDF* 1000～2000倍 トルネードエースDF 2000倍 ハチハチ乳剤 1000～2000倍</p>	<p>老熟幼虫は薬剤が効きにくいので、小さいうちに駆除する。</p> <p>*野菜類での登録</p>
コナガ		<p>・広範な地域で設置可能であればコナガコンプラス◇のいずれかの剤を、作物の上に設置する。</p> <p>ツインチューブ製剤 100～120本/10 a ロープ状製剤 20～40m/10 a</p>	<p>発生回数が多く、春から初冬まで発生加害する。</p> <p>幼苗期には心葉を好んで食害し、花蕾期には花も加害する。</p>
	育苗期	<p>1. 施設育苗の場合、サイド等の開口部には防虫ネットを用いる。施設の出入り口は常に閉めておく。土耕の場合、育苗床は防虫ネットを用いる。</p> <p>2. 次の薬剤のいずれかを処理する。</p> <p>ダントツ粒剤 株元散布 #2 0.5 g/株 プレバソンフロアブル5 セル苗等に灌注 #1、#3 100倍 プレバソン粒剤 株元散布 #4 1 g/株</p>	<p>◇成虫の交尾阻害が目的。使用にあたっては、「昆虫フェロモンを用いた防除資材」の項参照。オオタバコガ・ヨトウムシに対する登録も持つ。</p> <p>#1セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4L)あたり0.5L。土耕の育苗床では使用できない。</p> <p>#2育苗期後半 #3育苗期後半～定植当日 #4育苗期後半～定植時</p> <p>*野菜類での登録</p>
	生育期	<p>・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>アタブロン乳剤 2000倍 エスマルクDF* 1000～2000倍 エコマスターBT* 1000～2000倍 コテツフロアブル 2000倍 ダイアジノン乳剤40 1000倍 トルネードエースDF 2000倍 ハチハチ乳剤 1000～2000倍 プレオフロアブル 1000倍 プレバソンフロアブル5 2000倍</p>	<p>*野菜類での登録</p>

**ブロッコリー**(野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ハイマダ ラノメイ ガ(ダイコ ンシンク イムシ)	育苗期	1. 施設育苗の場合、サイド等の開口部には防虫ネットを用いる。施設の出入り口は常に閉めておく。土耕の場合、育苗床は防虫ネットを用いる。 2. 次の薬剤のいずれかを株元処理する。 ダントツ粒剤 育苗期後半 0.5 g/株 プレバソン粒剤 育苗期後半～定植時 1 g/株 モスピラン粒剤 定植前日～定植当日 0.5 g/株	夏が高温乾燥の時に多発する傾向がある。幼苗期に加害されると芯止まりとなり被害が大きい。
	幼苗期	・ 次の薬剤のいずれかを散布する。 チューンアップ顆粒水和剤* 2000～3000倍 プレバソンフロアブル5 2000倍	*野菜類での登録
ヨトウム シ	生育期	1. 卵塊で産卵され、若齢期は集団で見つけ次第葉ごと処分する。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを葉裏に丁寧に散布する。 コテツフロアブル 2000倍 フェニックス顆粒水和剤 2000～4000倍 グレーシア乳剤 2000～3000倍	5～6月と9～10月の2回発生する。 若齢期は表皮を残し葉肉をかすり状に食害する。 老熟幼虫は薬剤が効きにくい。
ハスモン ヨトウ	生育期	1. 卵塊で産卵され、若齢期は集団で見つけ次第葉ごと処分する。 2. 幼虫の若齢期に次の薬剤のいずれかを散布する。 フェニックス顆粒水和剤 2000～4000倍 プレオフロアブル 1000倍	春から初冬まで数回発生するが、多くなるのは8月下旬以降である。 中齢以降には薬剤が効きにくい。
ネキリム シ類	定植時～ 生育初期	1. 定植時に次の薬剤を土壤表面散布する。 ダイアジノン粒剤5 6 kg/10 a 2. 生育初期に次の薬剤を株元散布する。 ガードベイトA(粒) 3 kg/10 a	発生量が多くない時は、被害のあった株元の土を調べ、幼虫を捕殺する。
キボシマ ルトビム シ	生育期	・ 発生を見たら次の薬剤を散布する。 ダイアジノン乳剤40 700倍	